



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

中部の森林



ネット張りをする参加者



北アルプス双六池で 環境保全活動を実施

(P 5 に関連記事)

主な項目	○平成17年度中部森林管理局決算概要 P 2
	○森林施業現地検討会を開催 P 3
	○高山植物の保護と環境保全 P 5



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

平成十七年度 中部森林管理局決算概要

去る八月三十日、平成十七年度中部森林管理局の決算概要を公表しました。

平成十七年度の決算は、抜本的改革の基本方針に基づき森林の公益的機能の発揮と財務の健全性の回復に努めた結果、収支では十三億七千万円の収入超過となりましたが、損益計算上では、前年度より十二億九千万円の費用の縮減が図られたものの収益が減少したため、三十三億円の損失となりました。

◆発生収支

収入のうち、事業収入の大宗を占める林産物等収入は、長引く木材価格の低迷、素材販売量に占める間伐材の割合が高まったことによる平均単価の下落等により、前年度より三億五千万円減の三十六億五千万円となりました。

林野等売払代等は、大型物件が少なくなる中、分局廃止関連の公務員宿舍敷地等売り払ったものの、前年度より六億五千万円減の十二億八千万円となり、事業収入全体では前年度より十四億六千万円減の五十七億円となりました。

一方、一般会計からの受入金、公益林等保全管理費財源及び利子財源の受入が減少したものの、事業施設費財源が増加したことから、前年度より五千万円増の九十四億二千万円となりました。

また、新規借入金は前年度に引き続いてゼロとなりましたが、借換借入金は、前年度より八億五千万円増の八十五億四千万円となりました。

支出については、職員数の適正化等に努めたことや、退職金の減少等により給与経費等は前年度より三億四千万円減の七十八億六千万円となりました。

各事業費については、地球温暖化防止等に資する森林整備の推進や林道施設等災害復旧事業費が増加したことにより、前年度より四千万円増の六十八億円となりました。

借入金に係る償還金・支払利子は、前年度より七億六千万円増の百一億四千万円となりました。

以上の結果、二百六十一億七千万円の収入に対し、支出は二百四十八億円で、十三億七千万円の収入超過となりました。

◆損益計算

効率的な事業実行による事業経費の縮減や、減価償却費が減少したものの、収益が減少したことにより、損益計算上の損失は前年度より一億七千万円増加して三十三億二千万円となりました。

損 益 計 算

(単位:百万円)

費 用 (15,880)		収 益 (12,556)	
経 営 費	5,597	売 上 高	3,706
一般管理費及び販売費	1,784	林野等売払代	1,277
治山事業費	2,514	雑 収 入	772
減価償却費	3,852	治山勘定より受入	2,514
資産除却損	926	一般会計より受入	4,277
支払利子	1,057	雑 益	10
雑 損	150	本年度損失	3,324

発 生 収 支

(単位:百万円)

収 入 (26,173)		支 出 (24,802)	
林産物等収入	3,648	給 与 経 費	6,023
林野等売払代	1,277	基幹作業職員給与	1,836
貸付料等雑収入	772	業 務 費	1,853
治山勘定より受入	2,514	森林環境保全整備事業費	2,951
一般会計より受入	9,420	林道施設等災害復旧事業費	1,148
借 入 金 (借換借入金)	8,542	そ の 他	848
		償還金及び支払利子	10,143
		収 支 差	1,371

金額は、それぞれの科目で四捨五入しているので合計金額とは必ずしも一致しない。

森林施業現地検討会を開催

木曾谷森林計画区

地域管理経営計画等

〔計画課〕木曾谷森林計画区の第三次地域管理経営計画等の策定に向けた現地検討会を、九月十一～十二日の二日間、木曾森林管理署管内の三浦、王滝、小川入国有林において開催しました。

検討会には、学識経験者として、名古屋大学名誉教授の只木良也先生、信州大学農学部教授の植木達人先生を迎え、局長、名古屋事務所長をはじめ局署担当者四十六名、木曾森林振興事務所担当者六名が参集し、現地の森林を前に具体的な検討を行いました。

当計画区の国有林は、日本三大美林のひとつである木曾ヒノキ林を有し、森林浴発祥の地である赤沢自然休養林を代表



現地検討会の様子

とする優れた自然景観に恵まれ保健休養の場として、中京圏等から多くの人が利用すると共に、寺社仏閣等の内・外装材、面等等の文化財、伝統工芸資材や、楠、ヒノキ傘等の木工資材を供給する森林として、古くから木曾谷全域にわたって、木曾ヒノキ等を利用した産業が発達していることなどを踏まえ、当検討会において、「木曾ヒノキの育成」をテーマとして、施業方法や配慮事項について意見交換を行いました。

第一日目は、三浦国有林内の木曾五木漸伐複層型施業群において、保残木の風倒被害、稚樹の発生状況等を踏まえ、機能類型や自然条件に適合した施業の割り当てや、伐採手法、更新作業について今後の取組等を検討しました。

参加者からは、「漸伐施業は、林床の更新状況を常にチェックしながら取り扱いを検討する必要があるなど、大変な手間と、現地判断及び長期間を要する。画一的な作業を機械的に実施するのではなく、現地の実態に合わせた、きめの細かい施業を望みます。」等の意見が出されました。

二日目は、王滝国有林の群状択伐箇所において伐採方法や、稚樹の発生状況等を踏まえ、今後の後継樹の育成方法等を、小川入国有林の赤沢地域においては、木曾ヒノキ施業実験林の実績や奥千本での枯損状況を踏まえ、人為を加えたことによる一斉ヒノキ天然林の維持及び後継樹

の育成について検討しました。

参加者からは、「比較的天然林にも優しく、更新・育成を図っていく手法として、群状択伐はかなり良い施業である。」等の意見が出されました。

最後に現地において検討会のまとめを行い、只木先生から「地元住民や国民の支持を得ることが国有林の存在意義であり課題であるので、今後とも地元等の意向等を十分に反映できるように取り組んでいただきたい。」、植木先生からは「天然林の施業のおもしろさ、難しさを感じました。二宮尊徳の言い回しを借りると技術のない哲学は寝言だ、哲学のない技術は犯罪だ」と感じています。今後、施業を実施するにあたり、私からのひとつの提言としていただきたい。」などの講評をいただきました。

七月の豪雨で一ヶ月半延期した検討会でしたが、木曾森林管理署において、林道、歩道の補修に取り組んでいただいた結果、無事二日間、現地で熱心な検討が出来、有意義に終了することが出来ました。

流域管理調整官会議を開催

〔計画課〕平成十八年度流域管理調整官会議が、九月五～六日、北信署管内及び中部森林管理局大会議室で開催され、署等の流域管理調整官、局の関係者、名古屋事務所連絡調整官が出席しました。



高性能林業機械を用いた間伐の現場

一日目は、北信署管内飯縄山国有林において、長野森林組合が請負う高性能林業機械を用いた間伐作業を見学しました。

事業は、スギ人工林で一伐二残の列状間伐を行うものでしたが、スイングヤーダによる集材とプロセッサによる造材などが実施されており、参加者からは、スイングヤーダの功程、機能、特徴、オペレータの育成、助成システム、機械価格など細部にまで質問が出され、強い関心をもった見学となりました。

二日目は、局大会議室に場所を移し、長野県の森林林業政策と低コスト木材生産システムについて、長野県信州の木推進チーム廣橋技術幹から説明等を受けました。

その中で、「信州の森づくりアクションプラン」では、今後十年間で長野県の民有林の間伐すべき森林をすべて手入れすることとしており、生産コストの低減が必要であり、タワーヤーダ等を使用した効率的な生産システムを推進すると説明がありました。

引き続き会議では、流域管理アクションプログラムの実施状況、流域活性化協議会の最近の動向についての情報交換を行い、最後に計画部長から、高性能林業機械を使用した低コスト生産は需要構造と経済状況の変化を捉えた現場における柔軟な対策であること、民・国連携は民有林の施策の流れを知ることが重要、次期アクションプログラムに向け、相手との共催、協定などで連携する民・国連携を考えようとの総括を受け2日間の日程を終了しました。

「災害復旧工事に間伐材を！」 要請行動を実施

〔販売課〕 九月五日、県産間伐材の利用促進を図るため、長野県産材振興対策協議会（構成団体…中部森林管理局、県木連、県森連等木材関係団体）として、国・県の出先機関、市町村等長野県内二十六箇所に四班構成で要請活動を行いました。

要請は、県南部を中心に多大な被害をもたらした「平成十八年七月豪雨災害」の復旧事業に係わる木材利用の促進を図るため、本格的な復旧工事が始まる前に国土交通省の河川事務所・県の建設事務所や被害の大きかった市町村等を対象に実施しました。

各要請先には、「森林の保水機能が、被害拡大を抑制したこと」、「林業を担う

ものとして、森林の持つ機能の更なる向上に努める決意であること」、「県産間伐材の利用が、森林整備の推進に役立つこと」を主旨とした要望書を手渡し、協力を要請しました。

要請先からは、木材を使用する土木、建築等の公共工事の発注に当たっては、地域材の利用を仕様書等に定めて取り組んでいること、木材を利用する場合の強度・コスト面での問題もあるものの、可能な箇所へは積極的に使用する方針で、施工業者と工法等を検討している話も伺えました。

森林整備により生産される間伐材等の県産材は増加傾向にあることから、計画的な供給と、その利用方法等について今後も幅広く情報を提供し、利用促進に努めていきたいと考えています。



千曲川河川事務所への要請行動

報道機関の国有林視察

―長野市に拠点を置く報道機関各社―
南信署管内国有林を視察

〔総務課広報〕 九月二十日、長野市に拠点を置く報道機関の報道責任者による国有林視察を南信署管内の巫女淵特定地理等保護林で実施しました。

巫女淵特定地理等保護林は、石灰岩形成された地形に「巫女淵」と呼ばれる渓谷が構成され特異な地形とそこに生育するヒメマツハダ、ヒメバラモミ等の希少種等を保護しています。

森林管理局からは小緑局長、有井広報主任官が同行し、南信署から佐光次長、唐木調整官、宮路森林官が案内に当たりました。

当日は、途中、伊那市長谷で中央構造線の溝口露頭部を視察し、一千万年以上前の大陸の移動の時間の長さや想像を超えるエネルギーの大きさを感しながら、遠くに見える分杭峠までの中央構造線を肌で感じました。

巫女淵は、源平の戦いに敗れた平維盛が二人の妻を伴い「浦」部落に落ち延び、そのうちのひとり白拍子（巫女）が世を憐んで身を投げた悲しい伝説から来ています。

石灰岩は、炭酸カルシウムに富み、弱アルカリ性でマンガン等が少なく、土壌が薄く乾燥することなどからこの条件に耐えて生育する植物を石灰岩植物と呼



唐木調整官から説明を聞く参加者

び、トダイハハコ、シライワシヤジン、コマイワヤナギなどの植物を見ることが出来ました。

切り立った岩盤には、ヒメマツハダ、ヒメバラモミの希少種が見られ、林道の間には、両種の稚樹が生えており、林道の間には、両種の稚樹が生えており、参加者は、触って違いを実感していました。

岩場から水がわき出る「延命水」で昼食のあと、中央構造線と併行する仏像構造線、ニホンジカの食害などを視察した後、ゼロ磁場で話題を呼んだ分杭峠を回って帰路につきました。

参加者からは、「初めて見る物ばかりでびっくりした。」、「国有林の中には貴重な場所があることが分かった。」などの意見も聞かれ、盛りだくさんの内容の視察となりました。

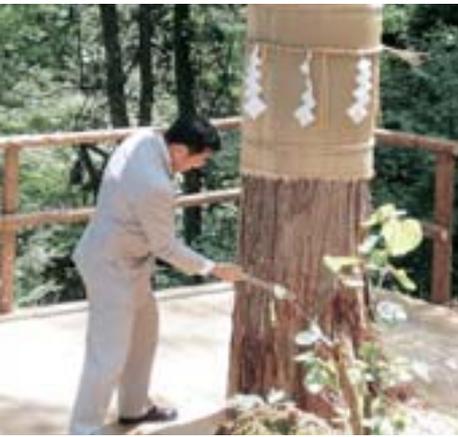
「名古屋城本丸御殿」 復元に向けて斧入行事

〔販売課〕八月二十二日、木曾森林管理署小川入国国有林（上松町）、二十四日、東濃森林管理署加子母裏木曾国国有林（中津川市）において、名古屋市が復元を目指す名古屋城本丸御殿に使用する木曾ヒノキの斧入行事が、名古屋市の主催により実施されました。

斧入行事は、復元に向けた機運を盛り上げようと、伊勢神宮の式年遷宮に倣って企画され、「三ツ紐伐り（みつひもぎり）」または「三ツ伐り（みつぎり）」と呼ばれる伝統の技法で、それぞれの国有林で一本ずつ伐採されました。

上松町の行事では、松原名古屋市長や尾張徳川家二十二代当主の徳川義崇さん、見学ツアーに参加した名古屋市民ら約百七十人が見守る中、一時間程で切り倒されました。

松原市長は切り株の中心に伐採した木の梢をさして、参加者全員で山へ感謝し、森林の再生を祈っていました。



斧入れをする小椋局長

高山植物の保護と環境保全

『高植協東信地区パトロール』

〔東信署〕高山植物等保護対策協議会東信地区では、毎年八月一日からの一週間を保護対策強化週間に設定し、今年も、八月七日に湯ノ丸・高峰自然休養林において、高植協東信地区の会員である佐久上小地方事務所を始め地元の自治体、観光協会等総勢二十三名によるパトロールを実施しました。

湯ノ丸・高峰自然休養林には多くの高山植物が咲いており、春から秋にかけて大勢の観光客が登山に訪れています。



パトロールの様子

当日は、籠の塔山、烏帽子岳の二コースに分かれてのパトロールとなり、登り初めは晴れていましたが、一時雷雨となるなど山の変わりやすい天気から登山者もまばらでした。パトロールでは、行き会う登山者にしおりを配布し貴重な高山

植物の保護の呼びかけや、ゴミ拾いなどのクリーン活動に汗を流しました。

今回は、ゴミも少なく、登山者による植物の踏荒らし等も見られませんでした。が、今後も、貴重な植物等の保護や環境を守る活動をしていきます。

北アルプス双六池で環境保全活動 ～森林官の新たな発想の取組～

〔飛騨署〕当署では、地域の要望をふまえた森林官等の新たな発想の取り組みとして、北アルプスの環境保全活動に取り組みました。

北アルプス双六池（二、八六〇）直下に位置する双六池は、高山帯にあるキャンプ場近くの池として広く登山者に親しまれています。縦沢岳から双六池へ流れ込む雨水等により浸食され池に土砂が堆積するとともに、周辺の植生の後退を招いている現状にあったことから、多くの登山者から対策を求める声が双六小屋を通じて寄せられていました。

こういった声を踏まえ関係行政機関と協議し、許可等の目途も立ったことから環境省平湯自然保護官事務所と連携し、飛騨署で組織する森林パトロールボランティア団体にも呼びかけ、行政とボランティアとの協働により実施したものです。人力による表掘の側溝と沈砂池の作設、自然分解性のネット張り作業を八月二十三～二十五日にかけて、延べ三十人が作業に参加しました。キャンプ中の登



ネット張りをする参加者

山者からも「手伝いたい。」との飛び入りもありました。

参加したボランティアからは、「登山者の一人として環境保全にいささかなりとも貢献できました。また、こういった機会を作っていただければ協力したい。」、双六小屋のオーナーからは「本当に実現するとは思わなかった。地域の要望に行政が連携しボランティアとの協働といった取り組みに感謝したい。」との感想が寄せられ、北アルプスの貴重な自然の保全活動として成果があったものと考えています。今後も地域の要望を踏まえ、行政間の連携、ボランティアとの協働など、現場職員の新たな発想を大切に

して取り組んでいく考えです。
（森林官等の新たな発想による取り組みは、今年度、現場第一線の組織である森林事務所や治山事業所に対し局から呼びかけを行っているもので、他にもいろいろな発想が寄せられています。少しずつでも各地で具体的な取り組みが実現するよう期待しています。）

各地からのたより

『軽井沢ふれあいの郷 二十周年記念』

【東信署】八月五日、「軽井沢ふれあいの郷二十周年記念式典」が関係各位及びふれあいの郷入居者の皆様の参加により盛大に開催されました。

当日は、東信森林管理署長及び軽井沢ふれあいの郷入居者協議会代表幹事の幸田シヤーミンさんの挨拶で始まり、徳野幸哉さんの津軽三味線の演奏や幸田シヤーミンさんの小唄が記念式典を盛り上げました。

軽井沢ふれあいの郷は、当署管内の長倉山国有林内にあり、区域面積九〇〇で総区画数五十区画、J.R軽井沢駅から北へ七キ、鬼押し出し、白糸の滝、竜返の滝が近くにある標高約一、一〇〇に位置し、林野庁が設定した「ふれあいの郷」第一



入居者と式典会場で記念撮影

号として、森づくりに参加し、国有林の中に家を建てて生活しながら、豊かな自然と積極的にふれあう、森の暮らしを楽しんでいただくことから始まったものです。募集当時は、別荘から浅間山が眺められたが、二十年も経つと立木も生長し、視界の妨げとなつていますが、入居者の皆様と共に試行錯誤しながら二十周年を迎えることができました。

森のクラフトと

紙芝居で学ぶ森林の大切さ

【名古屋事務所】八月二十日「第五回森林ふれあい講座」を名古屋事務所において開催しました。

今回は、特に都市部の子供たちを中心に「森林の大切さ」を学び、夏休みの思い出づくりをしてみようという熱田生涯学習センターと共催で実施しました。

当日は、最高気温が三十五度を超える猛暑のなか、八家族十四名が汗をかきながら参加しました。初めに「森林（やま）からの贈り物」と題した紙芝居で森林の働きや大切さを学びました。途中のクイズの場面では、子供たちが元気よく手を挙げ、一人で何度も答えてくれる子供もいました。また、森のクラフト作りでは、森林整備の際に搬出されたヒノキの輪切り板に、木の枝・木の実等、自然の部材を使って、クワガタムシやアニメのキャラクタ

クター等思い思いの作品を完成させました。

参加者は、森林の大切さを学び、自然の物で素敵な壁飾り等の作品ができ、とても思い出に残る夏休みになったことと思います。

なお、講座開催前にマスコミからの問い合わせや、当日は、新聞社が取材に訪れ、翌日には新聞記事として掲載される等、大都市で開催する「自然を学ぶ講座」への関心の高さが窺われました。



何ができたかな！

ボランティアリーダーズ スクールを開催

【名古屋事務所】九月九日、瀬戸国有林において連合愛知第四期ボランティアリーダーズスクールが開催されました。

これは、連合愛知が、ボランティア活動のリーダーを育成するための講座を開

講しているもので、平成十八年度は、環境・福祉・災害等のふれあいボランティア活動を、月一回全六回にわたり実施しています。

今回は、五回目の講座で「食と緑と水を守るために」というテーマで開催されました。午前中はボランティア団体を招き、森林づくりについての講義を受け、午後は「森の先生になろう」をテーマとし、名古屋事務所職員による、山の作業の講義と林業体験として、下刈及び間伐体験を行いました。

最初に「森林整備とは」と題し浅岡副所長から講話を聞いた後、事務所職員から下刈鎌の使い方や、間伐の実施方法等説明を受け、実際に作業を体験しました。森林に入つての作業をとっても楽しみにしていたと言う参加者も、残暑厳しいなかでの慣れない作業に戸惑い、汗を流しながら真剣に取り組み、山仕事の大変さ、大切さを肌で感じていました。

また、作業終了後には、「もし森林整備を怠ったならどうなるのか？」を課題にグループ討議・発表が行われ、お互いの成果を確認し合いました。最後にこの成果が参加者を通じ、より多くの人達にも伝わることを願いました。



間伐を体験しました。



実験林・試験地等紹介



「森林技術センター」御岳の西南中腹に広がる三浦国有林は、冷涼、多雨という気候であるため湿性ポドゾル等の劣悪な土壌が分布し、また、二メートルを超えるチマキザサが下層を覆っていることから人為的な更新が困難な地域です。

昭和三十年代の伊勢湾台風や第二室戸台風襲来により、この地域は、木曾ヒノキ天然生林に大量の風倒被害が発生し、森林の再生は深刻な問題でした。事態打開のため、当時の長野営林局は、昭和四十一年に、約四百二十畝の広大な規模で三浦実験林を設定しました。標高一、五〇〇メートル前後に位置する三浦実験林は、ヒノキ天然林の施業方法確立に向けた天然更新試験、風倒木処理跡地における人工更新試験、広範囲に分布する湿性ポドゾル土壌の研究という三つを柱に実験を進めてきました。

(7) 平成18年9月

写真は、帯状皆伐天然更新試験地で、塩素酸塩剤を用いササのコントロールを行うことで更新を促進した箇所と、塩素酸塩剤を用いない対照箇所です。平成十七年の調査では、ササをコントロールした箇所のヒノキ更新木が、ヘクタール当たり七千七百本で、写真で分かるとおり均等に配置し、そのうち五メートルを超える更



対照箇所



ササのコントロール実施箇所

人のうごき

中部森林管理局人事

九月一日付

▽林野庁出向（国有林野部計画課付）

（東信署佐久森林事務所森林官）

岡田 裕貴

九月三十日付

▽林野庁出向（森林整備部計画課付）

（指導普及課自然再生指導官（木曾森林環境保全ふれあいセンター））

中熊 靖

中熊 靖

新木は千二百五十本と、更新完了の状態です。対照箇所については、四百本と少なく、そのうち五メートルを超える本数は二百五十本で、配置も偏りが見られ更新完了とは言えない状況です。このように、ササ生地については、ササのコントロールが天然更新の鍵を握っていることが分かってきました。

四十年にわたり広大な規模で毎年調査研究を続けてきた例は、日本はもとより世界でも極めて稀と言われていることから、視察、研修の場として広く活用して頂きたいと考えています。

◇所在地：長野県王滝村

三浦国有林二六二六林班から二六四一林班



交流を深めたみなさん

第七回

有志管内野球大会を開催

「東濃署」九月二日、下呂つつじヶ丘公園野球場において、富山・岐阜・愛知・長野県に所在する国有林関係機関の有志による第七回有志管内野球大会を開催しました。

チームは、東濃署チーム、飛騨署・岐阜署・富山署・技術センター合同チーム、愛知所・局・南信署・伊那谷総合治山事業所の合同チームが参加しました。好天に恵まれる中、試合を通して交流を深めました。

大会は、三チーム総当たりで行われ、好プレー、珍プレーがたくさん生まれ大会を盛り上げました。結果は、愛知所合同チームが二戦全勝で優勝しました。



子供達もブナ林でリフレッシュ

◇「カヤの平高原」



「北信署」上信越高原国立公園の中心地、志賀高原の北に位置し、東に秋山郷、北に野沢温泉と奥信濃地域を代表する観光地に囲まれた標高一、五〇〇以上の緩やかな高原台地で、日本一美しいとも評される樹齢二百五十年前後のブナ原生林やシラカバの群生地が広がっています。周辺には牧場・キャンプ場や、一般人達も気軽に利用し、森林整備にも参加できる様々な自然とのふれあい拠点等があり、家族やグループでも利用できるファミリー・フォレスト・ガーデン（FFA）

G) や企業参加による法人の森などもあります。春の残雪の中、可憐なミズバショウやブナの芽吹き・新緑は眩く別世界を感じさせます。また、五月ではめずらしいブナの根開け等も遅い春を演出させてくれています。

夏は、湿性植物の宝庫である「北ドブ湿原」を中心にワタスゲをはじめ、タテヤマリンドウ、トキノソウ、ジャコウソウなどの湿原植物やニッコウキスゲ、ヤナギラン等可憐で貴重な高山植物の花のオンパレードになります。

植物分布上、南限の群生地として知られるチシマウスバスマシレ、オオバタチツボスマシレなどの植物の群落が広がっています。圧巻はなんとといっても 七月下旬から湿原一面を黄金色で埋め尽くすニッコウキスゲです。

秋は、シラカバ、ブナ林の紅葉がひときわ美しい姿を見せてくれます。

一帯は自然休養林ですが、現在、モデルプロジェクト（北信濃くらしと健康を支える森林づくり）、レク森林フレッシュユ対策、森林セラピー基地など、地域からも大きな期待が寄せられている高原です。

◇アクセス

上信越道豊田飯山インターから、千曲川を渡り、木島平村の糠塚集落から清水平林道を車で約一時間（三〇キロメートル）



ニッコウキスゲの群生

また、カヤの平高原から志賀高原、秋山郷、野沢温泉にそれぞれ約三十分。

行事・会議等の予定

- ◎森林ふれあい講座
10月1日 名古屋事務所
- ◎国有林野事業労働衛生週間
10月1～7日
- ◎国有林野事業労働衛生週間
10月2～3日 岐阜署管内
- ◎国有林野管理審議会
10月5日 中部森林管理局
- ◎事業担当部長会議
10月5～6日 林野庁
- ◎国有林野事業協力者感謝状贈呈式
10月11日 長野県上松町
- ◎林政記者クラブ国有林視察
10月11～12日 南信署管内

◎指導普及連絡会

10月12～13日 富山署管内

◎名古屋シテイフォレストスター事業

10月13日 東濃署管内

10月28日 愛知所管内

◎グリーンボランティア・サミット

10月25～26日 愛知所管内

◎木づかい推進月間

10月1～31日

コウヤマキ

コウヤマキは、一科一属一種の日本特産種の針葉樹で、樹高三〇～四〇m、直径一m程度。数百万年前の温暖な気候では北半球に広く分布していましたが寒冷化と共に、日本の福島県以南・四国・九州のみ分布しています。中部局管内では、木曾谷と裏木曾地区に生育し、木曾五木に数えられています。

今回、秋篠宮家の長男のお名前が「悠仁」さまと命名され、お印としてコウヤマキ（高野槇）が選ばれました。

